

平成25年大磯町議会

3月定例会総括質疑（2月22日）

質問議員	質問事項
1 5番 三澤 龍夫議員 (40分) 9:05～9:45	<p>以下の2点は、いずれも大きな事業の現実的な頭出しの予算となっている。基本的な考え方を問うことにより、事業内容を整理したい。</p> <p>1. 人と自然が共生する循環のまちづくり 厨芥類資源化施設整備事業に予算が900万円計上されているが、その内容を問う。</p> <p>2. 個性と魅力と活力のあるまちづくり 自転車駐車場整備事業に予算が1億6,600万円計上されているが、その内容を問う。</p>
2 11番 吉川 重雄議員 (40分) 9:45～10:25	<p>平成25年度施政方針を2月15日に町長は公表された。</p> <p>大磯町における財政状況が厳しく続くことが述べられた中で、町長としての見解を伺う。</p> <p>景気低迷の影響による収入の減少や高齢化による社会保障費の増大は誰しもが認める事実であり、今の社会状況である。</p> <p>地域主権改革が一段と進み、義務付け、枠付けの見直しや、町への権限移譲が進んで来ている中で、町長は「町がやるべき課題に優先順位を付けていく」と述べられているが、一般会計から特別会計予算を含めて、具体的に何が第1位の事業か、1位から10位をつけるとすると、どういう順位になるのか伺う。</p> <p>町長に就任し、去年は「改革の年」と位置づけ、①意識改革、②行政改革、③財政改革を改革の柱に取り組んでこられた。「改革」はまだまだ道なかばであり、今後も継続されると言われている中で、25年は「創る年」として「加速」と「幅」を持たせたとされているが、三つの改革が道なかばであるならば、後半の2年も幅をもたせるものではなく、改革を推し進めることが重要と思う。本当に幅を広げてやられる、欲を持つことで中身が「うすいもの」にならないかと思うが、どうか。町長の思いは職員へ徹底されているか。「改革の年」と「創る年」とは何がどう違うのか、違いはないのか。改革の途中であるのに25年度は「創る年」にしたいと述べられたが、わかるような説明を伺う。</p>

例えば、吉田邸の再建や大磯町土地開発公社が取得した大磯駅前用地の利活用は、以前より考え、検討されてきた点である。以前より議論がなされて来たものであり、新たに創り出されたものではない。新しいものとは私には感じられないが、いかがか。うわすべりのような 25 年度事業が起るのではないかと心配である。いささか不安を感じるころがあるので、ここにあらためて、25 年度の施政方針の基本的かつ具体的な事業展開があるのかを重ねて伺う。

①観光、②子育て支援、③健康づくり、④廃棄物対策、⑤危機管理対策、いずれもが「創る年」ではなく、旧年度の考えを「さらに充実させ掘り下げていく年」と思うが、いかがか。

また、一般会計ではなく特別会計に係る問題、課題が多々ある中で解消策が具体的に見えないところに、懸念を持っている。特別会計予算の総額は、87 億 7,400 万円で、一般会計から特別会計への繰出金の総額が 16 億 3,278 万円になっていることである。

中でも、国民健康保険事業の予算額は、医療費の伸びにより保険給付費は平成 19 年より伸び続けているのをどうするか。従来どおりで、目新しいものが見えないがどうか。

後期高齢者医療特別会計についても、医療費の伸びによる増額は今後とも続いていくことは目に見えている。どう対策を立て、伸びをおさえることができるのか抜本的な手立てが見えず、従来どおりと変わらないが、これで安心であり、問題はないと言えるのか。

介護保険事業特別会計についても、前年度対比 10%増となっている。これから大磯町も高齢化社会へ急速に進んでいくと言われている中で、介護保険サービス利用者は増加し続けていく。予算額はまちがもなく増大していく。この三つの特別会計の事業に対して緊急的な対策を従来より、より強力な対策をたてなければ、財政運営上、大きな問題として起きてくること必至である。

この三つの特別会計事業に対する取り組みがあまりにも甘い認識になっていないかと考えるが、本当に来年度の事業に問題意識をもって取り組んだ事業予算と言えるか。安心安全な認識を持った事業予算と言い切れるかを伺う。

町長にとって、折り返しとなる後半 2 年間の事業展開は、時間はない。言葉での羅列、当たりのよい言葉だけでは許されないし、実績をあらわす年度であることの自覚をお持ちか、町長としての見解を伺う。

質問議員	質問事項
<p>3 9番 鈴木 京子議員 (40分) 10:40～11:20</p>	<p>総括質疑の通告書をつくるにあたって、昨年の総括質疑を読み返した。改革の年、しがらみにとらわれないことが随所で強調されていた。しかし、町民の感覚からいっても、1年間で改革が進んだ手ごたえはないし、今回「しがらみ」について一言も述べられなかったことも理解に苦しむ。</p> <p>特にまちづくり基本計画の改定や公共施設の再配置など、町全体で議論すべき課題の論点整理も見えない中で、昨年言われた用途地域の見直しよりも対象が広がる線引きの見直しを今年は表明されるなど、町民にわかりにくい町政になってはいないか。シンクタンクの活用と参与の配置もわかりにくい。</p> <p>以上、全体の印象について述べたが、以下の項目について、具体的な答弁を求める。</p> <p>(1) 危機突破内閣と位置付けた安倍内閣は、公共事業の拡大の一方で社会保障や人件費の抑制を図るのではないか。地方交付税、町の福祉にとっての影響はどうか。また、生活保護費の基準の引き下げにより、住民税非課税、就学援助、医療や介護の高額療養費の基準が下がるなど、生活が苦しくなる住民が増えるのではないか。その場合、町の支援策はあるのか。</p> <p>(2) 神奈川県緊急財政対策の影響はどうか。</p> <p>(3) 国策による子育て世代の負担はどう変わるか。</p> <p>(4) 医療・介護・福祉全般及び教育分野について、H24年度と比べ、変更はないか。詳しい答弁を求める。</p> <p>(5) 自主防災組織のニーズ把握と対応をはじめとした防災対策はどのように進むのか。また、浜岡原発や横須賀港を母港とする米原子力空母の事故への対応は考えているか。</p> <p>(6) 脱原発をめざす首長会議に参加する考えはないか。給食食材の測定について、あらたな方策の考えはないか。</p> <p>(7) ごみ処理広域化は、町にとって重大局面を迎える。担当職員の頑張りに、町長としてどう応じるか。</p> <p>(8) 平和・国際交流事業はどう展開されるか。</p> <p>(9) 職員の職場環境をどう改善するのか。国の求める公務員給与のカットをするのか。</p> <p>(10) H25年度予算は、国の24年度補正による前倒しも考えられる。その際の対応は。</p>

質問議員	質問事項
<p>4 1 番 奥津 勝子議員 (40 分) 11:20~12:00</p>	<p>中崎町政折り返しとなる平成 25 年度の当初予算が示され、施政方針が出された。</p> <p>町税収入が 6 年連続の減額、地方交付税も減額が見込まれる厳しい財政状況が続く。こうした中で、総合計画に沿って質問をする。</p> <p>第 1 章 安全で安心なあたたかみのあるまちづくり</p> <p>1-1 安全なまちづくりの推進</p> <p>(1) 町民の安心、安全の観点から、防災、危機管理対策への予算付けは妥当と考えるか。</p> <p>1-4 健康づくりの推進</p> <p>(2) おあしす 24 健康おいぞ事業に大学や民間企業との連携による新たな産学協同の取り組みとは具体的にどのようなことか。また、その予算付けは。</p> <p>第 2 章 町民の力や知恵が集まるまちづくり</p> <p>2-3 効率的な行財政の運営</p> <p>(3) 行政評価を受け、事業の見直し、予算編成に反映したものはあるか。また、町民の意見が活かされたものとなっているか。</p> <p>(4) 大学との連携の中で神奈川大学と 3 月までに協定締結を目指すとするが、目的は。また、どのような分野での協定か。東海大学とは重ならないか。</p> <p>(5) 公共施設の管理や生沢プール跡地については、地域の方々との協働作業とあるが、町営住宅跡地など、売却、利活用については町民の方の意見は聴かないようだが、いかがか。</p> <p>第 3 章 人と自然が共生する循環のまちづくり</p> <p>3-3 循環型地域社会の形成</p> <p>(6) 1 市 2 町ごみ処理広域化が本格的に進むが、町民への周知、業務量の大幅な増加が見込まれる。現行の職員体制で十分と言えるか。</p> <p>第 4 章 心豊かな人を育てるまちづくり</p> <p>4-2 ゆとりを育む生涯学習の推進</p> <p>(7) 生涯学習をより一層推進するために、他市町村では町長部局に設置しているところが増えてきている。大磯町ではどう考えるか。</p>

4-4 地域に根ざした文化の継承と創造

(8) 何年も前から課題になっている郷土資料館のリニューアルはいつになるのか。

第5章 個性と魅力と活力のあるまちづくり

5-2 快適に移動できる交通基盤の推進

5-4 資源を活かした特色ある観光の推進

(9) 観光振興は重点項目に挙げているが、組織や体制は万全といえるか。

(10) 町民の関心が高い駅前町有地は、駐輪場はもとより、全体をどのようにしていくのか町の構想はあるか。

(11) マリア道、28号線整備、16号線の整備はいかがか。

(12) コミュニティバス改善の方向はいかがか。

5-3 活力と個性あふれる産業の振興

(13) 荒廃農地、里山保全への予算付けは妥当か。

「参画と協働によるまちづくり」を推進するための町長答弁を求める。

質問議員	質問事項
<p>5 8番 高橋富美子議員 (40分) 13:00～13:40</p>	<p>1. 第4章「心豊かな人を育てるまちづくり」では (1) 幼・保・小連携会議の中身はどのようなものか。また、中学校は入っているのか。連携強化をどのように図るのか。 (2) 幼・保と小学校、小学校と中学校の幼児・児童、生徒の交流は重要だが、その交流をどのように深めていくのか。 (3) 「運動、音楽や芸術などの分野で特色ある学校づくりに努める」とあるが、具体的にどのようにするのか。また、予算立ては。 (4) いじめ、不登校等の課題に対し「相談支援チーム機能の活用や小中学校適応指導教室に指導協力員を配置し、ケースごとの対応、教育相談及び児童生徒指導について充実を図る」とあるが、小中学校における協力員、支援員の体制をどのように考えるか。</p> <p>2. 「安全で安心なあたたかみのあるまちづくり」で、「安全なまちづくりの推進」に防災対策は新たな「大磯町地域防災計画」に基づいて行われるとある。防災意識の高揚、緊急時の対応知識の普及はとても大事である。幼・保・小・中の防災、減災教育も大事なことであり、中学生の被災地での防災学習も重要な学習となる。24年度の補正予算において中学生の防災学習事業が修正されたが、25年度においてはどのように考えているか。</p>

5名 28問

※時間は、事情により変更になる場合がありますのでご了承ください。